

令和2年 第1回 監査委員会 議事録

開催日時 令和2年7月27日(月)午後5時30分～午後7時20分

場所 杏林大学医学部付属病院第一会議室(外来棟10階)

出席者 委員長 宇井 義典 (医療法人社団佳仁会 三鷹第一クリニック院長、三鷹市医師会監事・前会長)

委員 大瀧 純一 (学校法人杏林学園理事、杏林大学長)
齊藤 浩司 (三鷹市健康福祉部 保健医療担当部長)
橋本 雄太郎 (杏林大学大学院国際協力研究科客員教授)
山口 育子 (認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)
オブザーバー 市村 正一 (杏林大学医学部付属病院病院長)
正木 忠彦 (杏林大学医学部付属病院副院長、医療安全管理部長)
吉成 清志 (杏林大学医学部付属病院薬剤部長、医薬品安全管理責任者)
森山 潔 (杏林大学医学部付属病院医療機器安全管理責任者)
大荷 満生 (杏林大学医学部付属病院医療安全推進室長)
小寺 正純 (杏林大学医学部付属病院医療安全推進副室長)
北原 るり子 (杏林大学医学部付属病院専任リスクマネージャー)
小松 由佳 (杏林大学医学部付属病院専任リスクマネージャー)
梅野 直哉 (杏林大学医学部付属病院専任リスクマネージャー)
田島 紳介 (杏林大学医学部付属病院医療安全推進室専従薬剤師)
中野 貴仁 (杏林大学医学部付属病院医療安全管理部課長)
高野 智博 (杏林大学医学部付属病院医療安全管理部係長)
佐伯 杏奈 (杏林大学医学部付属病院医療安全管理部事務員)
事務局 小塩 秋彦 (杏林学園総務部副部長)
駒形 周一郎 (杏林学園総務課課次長)
藤本 美佐緒 (杏林学園総務課課次長)
中野 かおる (杏林学園総務課係長)
座間 良一 (杏林学園総務課主任)

議題 医療安全管理体制の現状、医療安全推進のための活動状況

監査項目 インシデントレポート(令和元年度の分析結果、報告件数、レポート入力強化期間の設定)、画像診断報告書の未読防止(読影レポート既読管理機能の運用開始、既読率・状況表他、重要レポート全数調査・集計結果)、診療の経過説明
現場視察(集中治療室、薬剤部)

監査結果・委員からの講評

1. 患者の取り違え防止対策のためにバーコード認証の実施を推進して貰いたい。医科大学間の相互ラウンドの際に認証システムの視察を行うなど、導入の検討は進められている。
2. 研修医のインシデントレポート提出数は他の医科大学の例に比べ多くない。総合研修センターを介して報告数を増やすよう努力している。報告数が伸びていない原因について積極的な調査は行われていないとのことだが、紙媒体による報告から他の医師と同様にシステム(セーフマスター)を利用するよう改善が図られている。レポート入力により容易となるようスマートフォンとシステムとのリンケージを可能とするようなアプローチを行うことも良いと思われる。
3. 画像診断報告書の既読管理(未読防止)は、電子カルテの記載を点検することで画像診断書の重要所見の内容と医師がその対応を行っているか全件確認されている。アラートに対する確認は80%程となっているが、未確認7件を追跡調査した結果、ボタンのクリック漏れによることが確認されており実質的には100%の対応ができています。

4. 診療の経過の際の同意書を得る作業については、原点に戻って行うことを心掛けていくとのことであった。ビデオ等の教材を用いて徹底していくとの案も示された。特に高難度疾患ではない比較的通常の診療において疎かになりがちであるとの病院長のコメントがあった。説明に対する患者や家族の理解度については、充分理解していないケースもある。書面で確認したり患者や親族自身の復唱確認を取ることが有効と考える。ナースの同席ルールがあるが60%程度に留まっている。業務上の問題もあるようだが積極的な同席により情報を共有していくことが推奨される。
5. 現場視察においては、集中治療室の管理が外からも安心して確認できるようになっているシステムが評価できる。薬剤部では病棟薬剤師の完全配置が徹底し良い取り組みとして評価できる。

以上